



もてなしの心で語る わが街

えな自慢

えな自慢
えな食 55

栗きんとん

恵那の特産品の代表



▲上品な秋の味覚の栗きんとん

ひと口メモ

大正時代になって、この地方ではクリの栽培が始まり、栗菓子の生産量はどんどん上がっていった。それにつれて和菓子屋も増え、菓子屋同士が味や匠を競い、鍛錬した結果、地域ぐるみで菓子文化が発展し、「栗菓子・和菓子の里」として有名になった。

東美濃地域の特産恵那栗などのクリをふんだんに使った上品な秋の味覚。クリと砂糖で炊き上げて、茶巾しぼりでクリの形に整えて作る。クリの収穫が始まる9月ごろから冬にかけて手作りで製造される。その歴史は、加茂郡八百津町の緑屋老舗（明治5年創業）が製造したのが最初と言われる。その後、中津川や大井方面に伝わり、製造販売されるようになって、広く知られるようになった。市内では15軒以上の菓子屋が、使うクリの産地や品種にこだわり、伝統の製法で店ごとの個性を出している。



▲栗きんとんには、恵那ブランド「恵那栗」などのクリが使われている

岩村町獅子舞

雌獅子頭の舞い

えな自慢
えな祭 56



▲県重要無形民俗文化財に指定されている獅子舞

ひと口メモ

演目の一つ「葛の葉姫の子別れ」では、親子、夫婦の愛情の絆の細やかさ、別離の悲しさを表すところが見どころ。さらに、雌獅子が気持ちのありったけを込めて、ふすまに墨で縦書き、横書き、逆さ文字書きなどで歌を書く場面は圧巻。

江戸時代に発祥したと伝わる民俗芸能で、武士や町人でない岩村城下町の農村部「入り四郷」（現在の一色、領家、大通寺、山上）によって保存伝承されてきた県指定の重要無形民俗文化財。雌獅子頭（女獅子）を使用し、男性が女装して舞う優雅なもので、男性が女性らしい仕草をいかに表現して舞うかというところが見せ場。現在では岩村町秋祭り（県指定重要無形民俗文化財）の夜、かつての岩村城下町の路上の数カ所で獅子舞を披露し、秋祭りの夜を沸かせている。ことしの岩村町秋祭りは10月1日(土)に開催される。※岩村城下町の農村部のことを「入り」と呼ぶ。



▲獅子がふすまに墨で歌を書く場面は圧巻

次号は9月15日号
発行日は9月15日(木)です

広報えな No.158
2011年(平成23年)
9月1日発行

発行 恵那市役所/編集 企画課広報広聴係
岐阜県恵那市長島町正家一丁目1番地1 ☎(0573)26-2111/☎25-6150
<http://www.city.ena.lg.jp/> ☒info@city.ena.lg.jp

『広報えな』9月1日号、1部当たりの印刷経費は約9.4円(税込み)です。



◀市安心安全メール配信システム
(登録用QRコード)
市WEB版文字放送システム▶
(閲覧用QRコード)

口問い合わせ 防災情報課(内線317)



『広報えな』は環境に優しい再生紙を使用しています。
この印刷物は石油系インキではなく、地球に優しい植物油を使用したインキで印刷されています。

